第三講　情報化社会論

「世界の最新ニュースがリアルタイムであなたのパソコンのデスクトップに」という広告を見た。もう時代はそんなところまできたのか、と感心すると同時に、世界中の情報がリアルタイムで流れこんできたら、私の神経は、あっという間に限界を超えて発狂状態に入るのでは、と考えてしまった。

現代のデジタルネットワーク社会は、光速の伝達速度をめざして、同時性を世界全体に押し広げようとしている。情報が、[ア]的に遅延なく伝達されることこそ、電脳社会の見えざる目標なのかもしれない。私たちの心性も知らず知らずのうちに、速度礼賛者に変容していく。

時間のかかる手紙に代わって、瞬時に反応する電子メールを使うこと。書店に足を運ぶ代わりに、インターネット上の電子書店で、検索と注文を瞬時に完了させてしまうこと。分厚い研究書や古典をじっくり読む代わりに、電子テキストでキーワード検索しながら、必要な個所を瞬時に表示させること。思いついたとたんに、相手の携帯電話に気軽に接続して話してしまうこと……。つまり総じて、私たちは、欲した時に瞬時に世界とコンタクトをとり、行動していることになる。

ところで、情報といっても、その A 速度が情報の価値に大きくかかわるものと、そうではないものの二種類があることを忘れてはならない。

例えば、台風やそれに伴う交通の混乱の情報は、タイムラグがなければないほど価値が高く、速度はこの種の情報にとっては[イ]的である。そして、昨日出された台風情報は、今日の我々には何の価値もない。

これに対して、文学や思想の[ウ]的資料などは、伝達速度や時間的経過で価値が大きく変化することはない。

この両者はもちろん、従来は情報と知識という形で明確に区別されてきたものである。しかし、あらゆるものが情報化され、ネットワーク上に蓄積・開示されてしまう今日にあっては、すべて情報として処理され、この区別は忘却のかなたに追いやられてしまったようだ。

私の[エ]的な体験にすぎないかもしれないが、自分との対話をじっくりと重ねながら学び味わったものは、いわば体得され

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

たものとして、私に染み着いているが、早わかり方式で仕入れた情報は、私になんの痕跡も残さず、あっという間に消え去さってしまう。三日で覚えた情報は、三日で消え去ってしまうのである。

情報の速度こそが絶対の価値となっている現代においては、私たちは成熟していく存在であるよりは、瞬間的な反応マシン、つまり、情報が入りこんでは流れ出ていく一結節点にすぎない存在になっていくように感じられる。

ハイデガー（ドイツの哲学者）は、時間の本質を「時熟」、つまり、「今」の連続としてではなく、時間性の成熟としてとらえた（『存在と時間』）。逡巡（しゅんじゅん）すること、反省すること、あるいは、熟考、熟練などは、情報のインプットに対して、きわめて膨大で無駄に思われるタイムラグののちに、はじめてアウトプットが生じるたぐいの営みである。これらは瞬間的で[B]切れ切れの今の積み重ねではなく、むしろ時間の成熟によるものだ。

時間がかかる、時間の遅延があることを、すべてタイムラグとして否定的にとらえたり、スピーディーであることが、私たちの豊かさを保証すると考えるならば、それは根本的な錯誤であるように思われる。無駄な時間を省いて、残った時間で豊かな生活を、と喧伝（けんでん）とされながら、その残った時間もすべて無駄な時間を省くという心性に汚染され、「時熟」を味わえないからだ。結局、私たちの生活は、テンポ全体があわただしく加速しているだけなのである。

私たちが、便利さや速度の幻惑には徹底的に弱い存在であること、しかし、それにもかかわらず、それに身をゆだねることは、私たちを徹底的にやせ細った刹那（せつな）的存在にしてしまうこと。このことへの自覚は、今日においては決定的に重要であろう。

現代の情報・消費・社会システム全体が、便利さと速さを「豊かさ」と称し、それに向けて邁進（まいしん）せざるをえない以上、私たちは、常に情報反応マシン、消費マシンに変形されつつある存在である。だとすれば、「時熟」や成熟の契機は、外から与えられることを求めるのではなく、私たち自身の内側に［オ］的に求めていくほかはないのかもしれない。

（黒崎政男「電脳社会で自己を保つ」による）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問１　空欄ア～オに入るもっとも適切なものを、次の中からそれぞれ一つ選びなさい。ただし、一つの語句は一箇所しか入りません。

１　古典　　２　個人　　３　退廃　　４　即時
５　拡散　　６　自覚　　７　友好　　８　本質

問２　傍線部Ａでいう「そうではないもの」に当たる、漢字二字の語を文中から抜き出しなさい。

問３　傍線部Ｂでいう「切れ切れの今の積み重ね」が、私たちにもたらす事態として、筆者は、どのようなものを考えているか。それに当たる十字からなる一続きの語句を、文中から抜き出しなさい。（句読点は文字数に含めます）。

問４　次の１～６について、本文の内容に合致するものには○を、合致しないものには×をつけなさい。

１　われわれは、便利さや速度にまどわされやすいことを自覚して、電脳社会に対処することが重要である。
２　情報反応マシンとならずに、自分との対話を重ねて熟考することが情報を生かす道である。
３　光速をめざす伝達速度は、われわれに、より一層しあわせな生活をもたらす。
４　情報の伝達は、タイムラグがなければないほど価値が高いので、われわれも、それに反応しうる存在となる必要がある。
５　文学や思想が、情報化されてたくわえられると、瞬時に検索できるので、簡単に体得できる。
６　早わかり方式のみで情報を仕入れていると、われわれは一結節点にすぎない存在となる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　知識モノ解説

語句

心性→個人ではなく集団的な心理傾向・メンタリティ
タイムラグ→遅れ・ズレ
逡巡＝しゅんじゅん→あれこれ思いをめぐらせ迷うこと。四字熟語「狐疑逡巡」＝こぎしゅんじゅん
利那＝せつな→ごくわずかな時間・瞬間
契機＝けいき→きっかけ・起点
消費社会→現代社会・成熟した資本主義・後期資本主義・モノが機能ではなくイメージで消費される社会

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第三講

次の傍線部にあたる漢字を、次の各選択肢から選びなさい。

(ア) チエンなく高速伝達する　①地　②遅　③治　④知　⑤弛

(イ) 次第に心がヘンヨウする　①用　②要　③揺　④容　⑤様

(ウ) しっかりとタイトクする　①対　②耐　③隊　④体　⑤帯

(エ) 時間がケイカする　①径　②契　③携　④景　⑤経

(オ) 情報がチクセキされる　①畜　②蓄　③築　④筑　⑤逐

(カ) ボウキャクのかなたへ　①脚　②客　③却　④卸　⑤喀

(キ) コンセキも残さない　①跡　②籍　③席　④蹟　⑤績

(ク) 根本的なサクゴである　①策　②削　③錯　④作　⑤窄

(ケ) テッテイ的に弱い存在　①轍　②撤　③鉄　④哲　⑤徹

(コ) 速度にゲンワクされる　①幻　②現　③厳　④弦　⑤玄

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第三講　情報化社会論

《本文の対比構造》

主役

筆者の見解＝「電脳社会で自己を保つ」・知識・体得・成熟・「時熟」・人間は時間とともに成熟していく存在

↕ **主な対比**

敵役

現代社会＝電脳社会・デジタルネットワーク社会＝速度礼賛・便利さと速さ・人間を情報反応マシンに変える

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

《解説》

問１《キーワードに関する空欄補充・選択肢》

アは、前文の「光速の伝達速度」「同時性」と空欄直後の「遅延なく伝達」の言い換えであるから４「即時」と決まります。イは、「台風情報」という具体例については速度が価値を持つ、言い換えれば、最新ニュースであることが死活的に重要という意味になり、８「本質」と決まる。ウは、文学とならぶじっくり読む文書資料を指します。第三段落の「分厚い研究書や古典」という例も根拠になり、１「古典」と判断できます。エは、現代社会という大きな敵役との対比である「私」「体験」の側とセットになる語句です。したがって、２「個人」。オも、現代社会という大きな外部に対抗するもので、「内側」に求めるものです。前段落の「このことへの自覚」という表現も決定的なヒントとなり、６「自覚」と決定できます。

問２《キーワードに関する語句抜き出し》

速度重視ではない、すなわち筆者側のキーワードを漢字二字で文中より抜き出します。注意点は、具体例ではなく、よりまとまった語句を選ぶこと。したがって「古典」「手紙」「書店」などではなく「知識」となります。

問３《キーワードに関する語句抜き出し》

今度は、情報社会側＝敵役側のキーワードをぴったり十字で抜き出します。「瞬間的な反応マシン（九字）」「一結節点にすぎない存在（十一字）」の言い換えでもあります。したがって「やせ細った利那的存在」と決まります。

問４《全文理解に基づく正誤問題》

１は、最終段落の内容およびタイトル「電脳社会で自己を保つ」に合致する。２は「熟考する」まではよいですが、「情報を生かす」が誤り。筆者はスピード重視の「情報」を批判して「熟考」という表現を使っています。これは筆者側＝主役と敵役キーワードをごちゃまぜにした対比混乱の誤りの典型です。３は、情報速度重視が「しあわせ」をもたらすとの趣旨で筆者の意見とは正反対です。記述に反する誤りです。４は、情報反応マシンのような存在になるべきだとの趣旨で、これまた筆者

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

の見解とは正反対。５は、「情報化」により文学や思想を「体得できる」としていますが、これぞ対比混乱の誤りですね。６は、「早わかり方式」「情報」「一結節点にすぎない存在」と敵役キーワードとして一貫性があります。正しい説明です。

模範解答

問１　ア＝４　イ＝８　ウ＝１　エ＝２　オ＝６　問２＝知識　問３　やせ細った利那的存在

問４　１＝○　２＝×　３＝×　４＝×　５＝×　６＝○

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題解答　第三講

（ア）②　（イ）④　（ウ）④　（エ）⑤　（オ）②
（カ）③　（キ）①　（ク）③　（ケ）⑤　（コ）①

解答漢字一覧

（ア）遅延　（イ）変容　（ウ）体得　（エ）経過　（オ）蓄積
（カ）忘却　（キ）痕跡　（ク）錯誤　（ケ）徹底　（コ）幻惑

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。